

令和4年度 校内研究計画

武雄市立北方中学校

I 研究の概要

1. 研究主題

主体的に学び、考え、表現する生徒の育成

2. 研究主題設定の理由

下表から分かるように、本校生徒の学力は高いとは言えないが、生徒たちは「分かりたい」という気持ちを強くもっている。学習態度はまじめで素直に取り組む生徒ばかりである。教師は、その意欲を引き出して生徒が本来もっている学ぶ力を高めるように授業を行い、自らの資質・能力を目的に応じて用いることができるようにしなければならない。また、学習状況調査の結果と「主体的に取り組む態度」の評価がつながるように授業改善とよりよい評価の手立てを追究していくことが大切と考える。

そこで今年度の研究主題を「主体的に学び、考え、表現する生徒の育成」とした。

令和3年度12月実施 佐賀県学習状況調査 県正答率との比較

学年	国	社	数	理	英
1	0.90	0.91	0.88	1.06	0.87
2	1.04	0.98	0.92	0.97	0.89

3. 研究の内容と方法

(1) 授業スタイルの枠の共通化

ア 生徒が見通しをもって学習に取り組みやすくする

イ 生徒が学びを振り返りやすくする

ウ 若手教員が授業を組み立てやすくする

ために、授業スタイルの枠を次のように共通化した。

北方中授業スタイル

- 授業の振り返りを生徒が説明する授業
- 話し合う目的が明確な授業

(2) 振り返る活動の工夫

このスタイルの「授業の振り返り」は、以下の「『北方中授業スタイル』を取り入れた授業の流れ」のように、授業の導入と結びにおける振り返りを指している。

導入における振り返りの目的は、生徒の意欲を少しでも早く高めて見通しをもたせることである。ここでは、話す(説明する)活動を取り入れた。しかし、ワークシートを準備して空欄に書かせたり、練習問題を解かせたりするやり方も考えられる。

また、結びにおける振り返りでは、書く活動を取り入れた。これは、授業全体を振り返ったことを書いてまとめることで、思考力を鍛えることをねらっている。後述する「前進ノート A」に記入させることでもよいこととした。

「北方中授業スタイル」を取り入れた授業の流れ

過 程	学 習 活 動	
導 入	振り返る1 見通す1	○ 既習の学習を振り返り、生徒が説明する。 ○ 本時の学習を見通す。 (今日の「めあて」なら「まとめ」はどうか予想を出し合う。)
展 開	話し合う まとめる	○ 教師の例示に学びながら話し合う。 ○ 「めあて」に対する「まとめ」を考える。
結 び	振り返る2 見通す2	○ 本時の学習を振り返り、 <u>書いてまとめる</u> 。 (めあて、内容、方法、成果、課題) ※ 次時の「振り返る1」につながる。 ○ 次時の学習を見通す。

「振り返る1」と「振り返る2」の具体的なやり方は、教科や単元によってさまざまであるが、「振り返る2」で書いてまとめることは必ず行うこととした。

(3) 話し合い活動の適切な導入

話し合いをする目的は、「意見を一致させるため」や「それぞれの意見の共通点や相違点を明確にさせるため」である。普段の授業の中で言えば、「授業の中にどのような話し合い活動を設定すればめあての達成がより確実になるか」ということである。しかし、既習学習の理解が不十分で話し合い活動が成立していない場合は無理に話し合い活動を進めず、復習を丁寧に行わなければならない。

(4) 授業と家庭学習をつなぐ「前進ノートA」の活用

左側に、教科名・ABCD の自己評価・本時のめあて・振り返り(わかったこと、これから取り組むこと)を授業残り3分で書かせる。右側に、左側を受けて家庭で学習させ、翌朝提出させる。

(5) 家庭学習の定着を図る「前進ノート B」の活用

従来の自主学習ノートのことで、前進ノートAの右側 1 ページでは足りなかった分をここに書く。

(6) ICT 利活用による評価の工夫

例えば、授業の終わりに「分かったこと」「キーワード」等をタブレット入力で残す。単元ごとに記録ファイルを作成して ABC の評価を行う。

(7) ICT を利活用して思考力を高める工夫

スライドを共有し、自分の意見と同じ意見や違う意見などを探してじっくりと考える。具体的には、例えば、以下のようなやり方が考えられる。

- ① 教師の発問を聞いて
- ② 自分の意見をタブレットに入力する。
- ③ 生徒は友達の意見を読み、自分と同じ意見や違う意見を探す。
- ④ 赤色で自分の意見を修正する。(変わらなければそのままでよい。)
- ⑤ 発表する。

例 私は最初は「 」と思ったのですが、A さんの「 」という考えを知って「 」と変えました。なぜかという「 」だからです。

4. 年間計画

代表 2 名による研究授業を行い、全職員で参観する。その後に授業研究会を行う。

今年度は、代表 2 名による研究授業を行い、全職員で参観する。その後に授業研究会を行う。事前の学習指導案検討会や模擬授業などには、授業づくり部会を中心に行うが、家庭学習部会や教科部会も積極的に協力する。

研究授業1の後、各自で授業実践をし、11 月末までにレポート(具体的な内容)を提出する。

集まったレポートも参考にしながら、その後の授業を行う。研究授業2についても、研究授業1の後に提出された実践例などを踏まえ研究授業の内容に活かす。

月	日 程	内 容	研究授業
4	4/12(火)校内研究会1 (全体会+各部会) 4/20(水)研究推進委員会①	○全体計画・年間計画の作成 ○研究推進体制の整備	
5			
6			研究授業1 各自で授業実践
7			
8	8/19 (金)研究推進委員会② 8/23 (火)校内研究会2(各部会) 8/23 (火)校内研究会3(全体会)	○4～7 月までの振り返り、今後の見通し	
9			各自で授業実践
10			
11			授業実践レポート提出
12			研究授業2？
1	1/11 (水)校内研究会4(各部会) 1/16 (月)研究推進委員会③ 1/18 (水)校内研究会5(全体会)	○1 年間の振り返り	研究授業2？
2	2/15 (水)研究推進委員会④ 2/22 (水)校内研究会6	○次年度の見通し	
3			

Ⅱ 研究組織

研究推進委員会…校長、教頭、教務、研究主任、学力向上対策 Co、各部部长

↓

全体研究会

↓

各分会…授業デザイン分会(授業づくり分会 + 学習環境分会)、家庭学習分会

Ⅲ 各部の取り組み

1. (仮)授業デザイン分会

○「北方中授業スタイル」を推進する。

○「前進ノートA」に徹底して取り組ませる。3 年は続ける。

○前進ノートAは授業とつながっており、前進ノートBは今までの自主学習ノート(まとめ・挑戦・暗記)である。宿題を出す場合、漢字ノートや英語Bノート等もあるので生徒が混乱しないようにどのノートに取り組むのかを伝える。

○授業中に記入する時間を必ず取る。授業の終わりの時間を守る。

○毎朝のチェックは全ての教師が交替で行い、生徒の取り組み状況を把握する。

○授業に関して、職員間で共通理解することを守る。

・授業のはじめと終わりのあいさつ

・話し方・聞き方のルール

・テストの受け方

・正しい姿勢

・掲示物のフリガナ

○生徒を授業に集中させるために掲示物を制限する。

・黒板上…生徒信条、学校教育目標、いじめ追放宣言

・黒板…めあてとまとめ

・前方右…姿勢、話し方、聞き方

・担任裁量…校時表、当番表、配膳表など

・テストの受け方についての掲示物…適宜活用

○全教室にタイマーの設置を行い生徒にも見やすくする。

○学年掲示板に進路コーナーを設置してキャリア教育を推進する。

○SNS に関する学習の指導計画を立てて前進タイムの時間に実施する。

○オンライン授業の環境を整え、マニュアルを微修正し職員間の共通理解を図る。

○話し方・聞き方・姿勢については、日々の継続的な指導が行う。

○生徒会活動の月目標などが一目でわかる掲示の工夫をする。

○タブレットを保管庫に戻すよう呼びかけ、教科担当や学級担任は確認をするなど、タブレットの管理を徹底する。

○タブレットは、ただ持ち帰らせるのではなく、学習に役立てる指導を教師側が日々心掛ける。過去問などの配布、授業とタブレットドリルの並行利用、NHK for school の動画の授業利用なども考える。

○双方向授業に向けての教師側のスキルアップを図る。

○オンライン授業を受ける心構えや約束事などを生徒に指導する。

2. 家庭学習部会

○学校と家庭が連携して家庭学習の呼びかけを行う。

・部会で啓発するチラシ「810 大作戦」を作成する。PTA 本部役員と連携して、全保護者に協力依頼を呼びかける。

・教室掲示を行って「810 大作戦」に取り組むよう啓発する。

・学年通信や長期休業時のしおりにも掲載し、継続した指導を家庭と連携して行う。

・学校メールで啓発を行う。

○テスト前に前進ノートB(自主学習ノート)の取り組みを全学年で行う。生徒会文化部の生徒と連携して取り組む。

・全学年で統一して取り組むには部会で協議する時間を確保し、計画的に準備を行う。

・前進ノートBの未提出者及びこの取り組みが不十分な生徒の指導は、全学年で共通理解して取り組む。ただし、生徒や教員の負担にならないように、テスト休みの期間を活用して2日間程度の学習会を放課後に設けて学習指導を行う。

・前進ノートBの 3 つの活用法(理解系、記憶系、挑戦系)を学年の実態に応じて生徒に具体的に示す。

〈具体的な取り組み内容〉

目 的 家庭学習の習慣を身につけ、学習内容の定着を図る。

期 間 定期テスト前 2 週間

内 容 土日祝日を問わず毎日 1 ページ取り組む。翌朝提出をする。生徒会の文化部が呼びかけや掲示物の作成をする。

評 価 2つの賞を準備し、生徒名を掲示発表する。

それぞれの賞を受賞した生徒には、ノートの表紙に賞状シールを貼り、頑張りをたたえる。

「継続は力なり賞」…こつこつと毎日取り組んだ人

「磨けば光るで賞」…自分の学習に磨きをかけた人(目標のページ以上)